



## 2012 年度学融合推進センター年報

総合研究大学院大学 学融合推進センター

2012年度学融合推進センター年報

CPIS-Report-2013/12/001(Review)

発行日：2013年12月12日

発行：総合研究大学院大学 学融合推進センター

無断複写・転載禁止 Printed in Japan

# 目次

1	<b>はじめに</b>	1
1.1	センター事業の概要	1
1.2	推進センターの組織	1
1.3	予算	5
2	<b>学術交流事業</b>	6
2.1	学生セミナー	6
2.2	学生セミナー実行委員会	7
2.3	JSPS サマープログラム	8
2.4	国際コミュニケーション	9
2.5	学術交流会	9
2.6	国際シンポジウム	10
3	<b>学融合教育事業</b>	11
3.1	公募型教育事業	11
3.2	研究者入門	12
3.3	大学院教育研究会	12
4	<b>学融合研究事業</b>	13
4.1	戦略的共同研究 I	13
4.2	戦略的共同研究 II	14
4.3	公募型共同研究 (継続課題のみ)	15
4.4	若手研究者研究支援	15
4.5	女性研究者研究支援	16
4.6	論文助成事業	16
4.7	公開研究報告会	16
4.8	学融合研究事業の検討	17
5	<b>基盤整備事業</b>	18
5.1	学術広報事業	18
5.2	ホームページの運営	18
5.3	遠隔教育支援事業 (動画配信サイトの整備)	18
5.4	センター基盤事業経費 (葉山公募)	19
6	<b>その他の活動</b>	20
付録 A	<b>全学教育研究交流事業の歴史</b>	21
付録 B	<b>運営委員会記録</b>	21
付録 C	<b>学融合研究事業の「進化」</b>	23

付録 D 教員研究活動報告（2012年）

24

付録 E 2012 年度行事日程

26

# 1 はじめに

学融合推進センター（以下、推進センター）は 2010 年度に設置された（それまでの経緯については付録 A 参照）。その目的は「全学に開かれた自由闊達な学術交流を行う本学の教育研究拠点の役割を果たし、学融合による学際的で先導的な学問分野を開拓する」ことである [1]。本レポートは 2012 年度における推進センターの活動を不十分ながら、まとめ、報告し、大学内外からの批判と提言をいただき、将来への参考にさせていただくためのものである。

## 1.1 センター事業の概要

センター事業には以下が規定されている [1]。

- 学術交流事業：全学共同教育研究活動など全学の教員及び学生の連係交流事業に関すること。
- 学融合教育事業：科学の総合性及び人間の総合性を付与する全学教育事業の推進に関すること。
- 学融合研究事業：学内共同研究及びその他の研究関連事業の企画及び実施に関すること。
- 基盤整備事業：研究科及び専攻を跨ぐ共通課題のうち、集約して基盤的な整備を実施する事業に関すること。

また、特別教育プログラムの運営、実施にも協力する。

もちろん、これらの緒事業が相互に独立、無関係ということでは無い。学融合教育事業、学融合研究事業は、「自由闊達」な学術交流事業の存在を前提とする。学術交流事業に参加した教員、学生の中から新分野の形成につながるような教育・研究事業が生まれてくるようなシステムを構築し、運営することが推進センターの任務と言えるだろう。

## 1.2 推進センターの組織

### 1.2.1 委員会

センターに関係する委員会としてはまず、学融合推進センター運営委員会がある。これはセンターにおける重要な事柄を審議する委員会である。（2012 年度の審議事項については付録 B 参照。）一方、歴史的な経緯から全学事業担当教員会議が存在し、学融合教育事業、学術交流事業についてご協力、ご意見をいただいた。また、2つの特別経費プログラム「科学知」の総合化を目指す大学院教育プログラムの推進、「実践的な問題解決を持つ研究者養成のための全学連携推進活動の推進」に関する特別委員会がセンター運営委員会の下にある。

#### ■学融合推進センター運営委員会

- センター長 平田 光司

- 各研究科から推薦された委員

文化科学研究科 比較文化学専攻 教授 鈴木 七美

物理科学研究科 宇宙科学専攻 教授 依田 眞一

高エネルギー加速器科学研究科 加速器科学専攻 教授 齊藤 芳男

複合科学研究科 情報科学専攻 教授 速水 謙

生命科学研究科 遺伝学専攻 教授 小林 武彦

先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 教授 蟻川 謙太郎

- センター所属の教員のうちセンター長が指名する委員

学融合推進センター 特任教授 桂 勲

学融合推進センターセンター兼担教員 教授 颯田 葉子 (副センター長)

学融合推進センター兼担教員 教授 佐々木 顕

学融合推進センター兼担教員 准教授 田辺 秀之

- その他センター長が指名する者 (2名以内)

文化科学研究科より1名 国際日本研究専攻 教授 荒木 浩

科学知特別委員会委員長 先導科学研究科生命共生体進化学専攻 教授 長谷川 眞理子

**■全学事業担当教員会議** 2004年度、全学事業推進室設置とともに設けられた。推進室閉鎖後も学融合教育事業、学術交流事業に関してアドバイスをいただく組織として残る。2006年3月の学長名による各専攻長への担当教員指名依頼では、その役割は「学生セミナー、JSPS サマープログラム、長倉奨励賞選考会への参加奨励と次年度への提案、及び総研大ジャーナル、総研大 HP 掲載にふさわしい各専攻における教育研究の成果報告に関すること」となっている。2009年度から、国際シンポジウムのテーマの選考、決定は全学事業担当教員会議に依頼することとなり、2010年度実施の国際シンポジウム「脳研究の最前線—人間の統合的理解を目指して」のテーマ選択時点からは、全学事業担当教員会議での審議によっている。

地域文化学専攻 教授 (専攻長) 久保 正敏

国際日本研究専攻 教授 細川 周平

日本歴史研究専攻 准教授 高田 貫太 (2012年5月1日～)

メディア社会文化専攻 教授 山田 恒夫

日本文学研究専攻 准教授 相田 満

構造分子科学専攻 准教授 鈴木 敏泰

機能分子科学専攻 准教授 藤井 浩

天文科学専攻 准教授 関本 裕太郎

天文科学専攻 准教授 花田 英夫

核融合科学専攻 教授 三戸 利行  
宇宙科学専攻 准教授 船木 一幸  
加速器科学専攻 准教授 菊谷 英司  
物質構造科学専攻 准教授 間瀬 一彦  
素粒子原子核専攻 教授 橋本 省二  
統計科学専攻 准教授 島谷 健一郎  
極域科学専攻 准教授 工藤 栄  
情報学専攻 准教授 佐藤 いまり  
基礎生物学専攻 教授 松崎 政紀  
生理科学専攻 教授 柿木 隆介  
遺伝学専攻 教授 上田 龍  
生命共生体進化学専攻 准教授 本郷 一美  
学融合推進センター センター長 平田 光司

■「科学知」の総合化特別委員会 特別経費『「科学知」の総合化を目指す大学院教育プログラムの推進』の予算計画を策定し、実施主体になるとともに、「科学と社会」全学教育プログラム実施を目指した教育研究活動を行う。

- 先導科学研究科 教授 長谷川 真理子（委員長）
- 先導科学研究科 准教授 伊藤 憲二
- 先導科学研究科 助教 飯田 香穂里
- 先導科学研究科 助教 標本 隆馬
- 学融合推進センター 助教 見上 公一
- 学融合推進センター 教授 平田 光司

■「実践的な問題解決能力を持つ研究者養成のための全学連携活動の推進-新たなキャリアパスへの挑戦-」特別委員会 特別経費「実践的な問題解決能力を持つ研究者養成のための全学連携活動の推進-新たなキャリアパスへの挑戦-」の運営を行う。

- 大学理事 池内 了（主査）
- メディア社会文化学専攻 教授 三輪 眞木子
- 極域科学専攻 准教授 伊村 智
- 基礎生物学専攻 准教授 成瀬 清
- 生命共生体進化学専攻 教授 長谷川 真理子
- 生命共生体進化学専攻 教授 颯田 葉子

- 学融合推進センター 講師 岩瀬 峰代

### 1.2.2 教員および主な役割

センター教員には専任教員の他、先導科学研究科から兼務する教員（以下「兼任教員」）、先導科学研究科等センター以外の部局から協力する教員（「協力教員」）、センター事業に関し、高度の専門的な知識経験を一定の期間活用して行うことが特に必要と認められる業務に従事する特任教員がある [1]。センターの業務は全員の協力で行うが、企画その他においては責任者、担当者を決めているものもあり、その担当をカッコで示す。なお、特別教育プログラムを担当する教員がセンターの特任教員として雇用されることがあり、葉山を勤務地としない場合もある。

- センター長： 教授 平田 光司
- 副センター長 教授 颯田 葉子
- 特任教員 特任教授 桂 勲（教育事業責任者、11月30日まで）
- センター兼任教員： 先導科学研究科から推薦された教員
  - － 教授 颯田 葉子（交流事業責任者）
  - － 教授 佐々木 颯（研究事業責任者）
  - － 准教授 大田 竜也（遠隔教育支援事業責任者、情報ネットワーク事業責任者）
  - － 准教授 田辺 秀之（学術広報責任者）
- 専任教員： センター運営委員会の議に基づき学長が任命した教員
  - － 講師 岩瀬 峰代（学術交流事業担当、教育事業担当）
  - － 助教 見上 公一（研究事業担当、ニューズレター担当）
  - － 助教 奥本 素子（遠隔教育支援事業担当、教育事業担当）
  - － 助教 山田 雅之（実践的な問題解決能力を持つ研究者養成担当、センターホームページ担当）
  - － 助教 眞山 聡（学術広報事業担当、2013年2月まで）
  - － 助教 村尾 静二（科学知の総合化担当）
- センター協力教員
  - － 学長付教授（非常勤）湯川 哲之（教育事業責任者、12月1日－3月31日）
  - － 学長付教授（非常勤）麻生 武彦（学術交流会担当、学術ネットワーク事業協力）
  - － 葉山情報ネットワークセンター 助教 洞田 慎一（学術ネットワーク事業協力）
  - － 広報室 助教 眞山 聡（学術広報事業協力、2013年3月から）
  - － 学長付教授（非常勤）米本 昌平（教育事業協力）
- センター特任教員（特別教育プログラム）
  - － 特任教授 藤澤 敏孝（特別経費・統合生命科学教育プログラム プログラム長）



## ■人事異動

11月30日	桂 勲 特任教授退職
3月1日	眞山 聡 助教, 広報室長(学長付) となりセンターの身分は協力教員に。
3月31日	山田 雅之 助教退職
3月31日	村尾 静二 助教退職

## 1.3 予算

2012年度のセンター予算(当初)は332,069千円である。そのうち、使用目的の定まっている特別経費分を除く実質的な予算は予算委員会の決定により161,533千円であった。ここに教員、事務員の人員費は入っていない。

事業ごとの総予算は表1のようになる。

事業種別	例	予算(千円)	割合(%)
交流事業	学生セミナー、学術交流会、国際シンポジウムなど	17,000	11
教育事業	公募型教育事業、研究者入門など	46,500	29
研究事業	公募型研究事業、出版補助事業など	86,533	54
基盤整備	web改修、情報ネットワークなど	3,100	2
センター運営	運営委員会、教員研究費、事務経費など	8,400	5
合計		161,533	100

表1 学融合推進センター 2012年度当初予算(除人員費、特別経費)

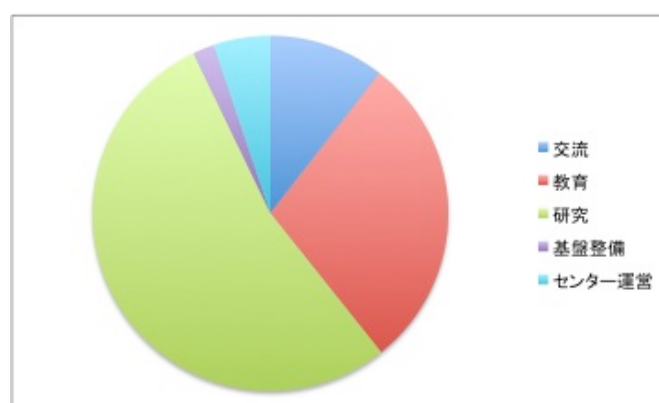


図1 当初予算の割合

## 2 学術交流事業

### 2.1 学生セミナー

学生セミナーは入学式に引き続いて行われる学生主体のイベントである。現在は春、秋の2回行われ、学生によるそれぞれの実行委員会(2.2章参照)が計画、実施の中心となり、センターは主にサポートを行う。

その目的は多様であるが、中期目標に掲げた「専攻を置く基盤機関の優れた人的・研究的環境を活用し、高度の研究的資質、広い視野及び国際的通用性を兼ね備えた一流の研究者を育成し、質の高い学位取得者を社会に送り出す」ことを目的に、中期計画に掲げた「広い視野を養成するために、専攻及び研究科の枠を越えた教育研究活動を実施」するものである。さらに総研大生としてのアイデンティティー形成に資することも意図されている。

これまでの経緯をふくめ詳しくは文献[4]を参照のこと。

#### 2.1.1 前学期学生セミナー

【開催日】2012年4月12日(木) - 13日(金)

【内容】在 student で構成された前学期学生セミナー実行委員が企画した新入生向けプログラム。学生セミナー実行委員は、自分たちで学際交流、地域交流、社会発信をテーマに、プロジェクトを企画し、その経験を学生セミナー企画に反映した。

テーマ「つながる」

プログラム

セッション1：地域を学ぶ，地域に学ぶ～地域交流～（ワークショップ）

セッション2：あなた Color, 私 Color～研究者同士の分野を越えた交流～（ワークショップ）

セッション3：To Spread Yours～社会発信～

講義1： 共栄大学講師 平井 宏典

講義2： 天文科学専攻准教授 縣 秀彦

【会場】学融合推進センターおよび共通棟2階講義室

参加者： 計103名で、内訳は教員18名、学生83名（うち実行委員は14名）。

#### 2.1.2 後学期学生セミナー

【開催日】2012年10月11日(木) - 12日(金)（「日本文化を学ぶコース」、「日本語講座」を続けて開催）

【内容】在 student で構成された後学期学生セミナー実行委員が企画した、新入生向けプログラムの実施。

テーマ：“Follow your rainbow”

講義1（理系）：BYRNES, Tim（国立情報学研究所（NII）情報学プリンシプル研究系 助教）

講義2（文系）：SPEARS, Scott（國學院大學 文学部 外国語文化学科 日本中世文学（和歌文学）助教）

夕食懇談会（ディナーセッション）

交流ワークショップ

日本文化ワークショップ

講義3（日本文化と伝統的な生活様式）：八巻 恵子（東京国際大学 国際関係学部 客員講師）

多様な文化を知る（国立民族学博物館における研究を学ぶ）

□日本文化を学ぶコース（12日午後） 総合研究大学院大学（共通棟）、葉山町及び鎌倉市内の文化施設

□日本語講座（13日-14日） 総合研究大学院大学（センター棟セミナールーム）

参加者：

\*後学期学生セミナー 40名：学生 33名、教員 5名、講演者 2名

\*日本文化を学ぶコース 37名：学生 33名、教員 1名、その他 2名

\*日本語講座 21名：学生（受講者計 16名）、教員 1名、講師 4名

日本語講座の参加者の中から、希望者にはさらに日本語、英語によるエッセイ集の原稿を書いてもらい、冊子にまとめた [5]。

## 2.2 学生セミナー実行委員会

推進センターは学生セミナー実行委員会活動を補助、指導する。例年、前期および後期の学生セミナー終了後、新入生のなかから希望者を募り、また、各専攻からの推薦によって新委員会が作られる。最初の会合では前年度の学生セミナー実行委員も出席し、引き継ぎを行っている。このため企画・運営が停滞することなく、また事業としての連続性も保たれる。

学生セミナー実行委員会活動を通じて、委員は研究を遂行する上でも必要となる他分野の研究者との対話力、社会との対話力、社会への発信力を養うことができるように計画している。また、総研大生としてのアイデンティティの育成のために「各専攻（各基盤）を知る」ための企画を組み入れるようにしている。

■2013年度前学期学生セミナー実行委員会活動内容 実行委員には2012年のセミナー参加者の中から16名が選ばれた。2つのチームに分かれ、以下のようなプロジェクト活動を行なった。その後、プロジェクトで実行委員自身が学んだことを、セッションの企画として作り上げ、学生セミナーにおいて実施した。全体会議を5回、プロジェクト会議を各6回開催した。

□学際ネットワーク構築プロジェクト（内チーム）：コンセプト「ワークショップ後に異分野に興味

を持ってもらう」

7つの基盤専攻を訪問し、基盤研究者のレクチャーの受講および研究者へのインタビューの実施とともに交流会を開催した。訪問した記録、インタビューをまとめて冊子を作成した（総研大生って何者！？「総研大生という生き物」を探る旅、2013年4月8日）。

□社会への発信プロジェクト（外チーム）：コンセプト「社会と科学のかかわり合いを知る」

サイエンスカフェを行い、招聘研究者および自分自身の研究について社会に発信する機会を作った。参加者（15名）にアンケートを取り、その結果に基づいて学生セミナー企画の検討を行った。

**■2012年度後学期学生セミナー実行委員会活動内容** 後学期学生セミナー実行委員は20名、総研大生のアイデンティティの育成と分野を超えた人的ネットワークを形成するとともに日本文化と習慣について学ぶ機会を提供する。その活動を通して、他分野の学生とのコミュニケーション能力を獲得することを目標とする。

2012年10月の後学期学生セミナーの準備のためのミーティングとして、2012年4月20日に後学期学生セミナー交流会が開催された。“Tell us about your career!”をテーマに、外国籍学生を中心に議論が行われた。その後、企画会議を2回行い、“Follow your rainbow”というテーマを決定、セミナーを実施した。全体会議は2011年度も含めて4回行った。

**■2013年度後学期学生セミナー実行委員会活動内容** 後学期学生セミナー実行委員の14名は次回の学生セミナーのテーマを“Your Journey”と決定した。このテーマのもと、講演者、ワークショップ内容を話し合い、企画を進めた。また、日本文化を学ぶコースを組み立てるために鎌倉市観光協会のガイドの方のレクチャーを受けた後、企画の検討を行った。全体会議は2012年度実施分は2回であった。

## 2.3 JSPS サマープログラム

総研大と日本学術振興会が毎年共催で行う事業であり、今年度は6月13日から8月21日まで行われた。参加者は108名。内訳は以下のとおりであった。

NSF	63
British Council	12
CNRS	10
DAAD	14
Canadian Embassy	9

表2 JSPS サマープログラム参加フェローの推薦母体ごとの人数

6月13日 開講式

6月14日 日本語授業、Prashant Pardeshi氏（国立国語研究所）の講義「Japanese Language: as viewed from an external perspective」、原隆宣氏（総合研究大学院大学 素粒子原子核専攻）の講義

「Unanswered Mysteries of the Universe」、および夕食後の日本文化紹介

6月15日 日本語授業、ポスタープレゼンテーションのあとホームステイ

6月18日 日本語授業および安藤政輝氏(元東京芸術大学教授)他による邦楽の講義「Traditional Japanese Music and Instruments」および実演

6月19日 受け入れ機関に出発

8月21日 報告会、送別会(ホテルグランドパレス)

## 2.4 国際コミュニケーション

JSPS サマープログラムと併設する本学学生に対する講義。英語によるポスタープレゼンテーションの実践的知識をさずける。レセプション、講義およびポスターセッションに JSPS サマープログラム参加フェローと共に参加する。総研大レクチャーとして毎年開講している。

6月13日 英語研修(5時間)・JSPS フェローとの交流レセプション

6月14日 英語研修(4時間)・JSPS 特別講義・日本文化紹介

6月15日 英語研修(3時間)・ポスターセッション

2012年度の参加者は4名であった。

## 2.5 学術交流会

3月21日

- 第1部 学術講演会
  - － 学長挨拶
  - － 「南インドの津波災害からの復興」 杉本 良男(比較文化学専攻・教授 国立民族学博物館・副館長)
  - － 「核融合研究の現状と展望」 金子 修(核融合科学専攻・教授 核融合科学研究所・副所長)
  - － 「生から死へ、死から生への生理学」 岡田 泰伸(生理科学専攻・専攻長 生理学研究所・所長)

- 第2部 第18回長倉賞候補者発表会 「わが研究成果」

3月22日

- 第3部 学術交流フォーラム
  - － 「中東のキリスト教徒とその役割 ―調和と対立のはざままで―」 菅瀬 晶子(国立民族学博物館・助教)
  - － 「光でつなぐ量子ネットワーク」 山本 俊(大阪大学基礎工学研究科・准教授)

- 第4部 新修了生への饞（はなむけ）レクチャー
  - －「加速器科学が挑む素粒子・宇宙の謎の解明」鈴木 厚人（高エネルギー加速器研究機構長）

二日間にわたり平行して学術交流フォーラム/エキシビジョンが行われた。

## 2.6 国際シンポジウム

**2012年度総研大国際シンポジウム「知の循環社会－グローバル融合社会における情報循環ネットワークの創成－」** (International Symposium on Global Knowledge Circulation - Designing Integrated Social Infrastructure)

日程： 2012年12月13日（木）午後2時～12月14日（金）午後4時45分

場所： 湘南国際村センター（神奈川県三浦郡葉山町）

代表者（議長）： 曾根原 登（情報学専攻教授、複合科学研究科長）

参加者 国内131人、国外50人、計181人、このうち本学学生は36名（27名が留学生）。

なお、JSPSから200万円の補助を受けた。

### ■プログラム

12月13日

14:00 Welcome Address, Noboru Sonehara (chairman)

14:15 Greetings by President of the Graduate University for Advanced Studies, Naoyuki Takahata

- [Session1] Data-centric Science - Overview, Theory, and Practice

14:30 [Keynote Lecture] Data-centric Science Research Commons, Genshiro Kitagawa (President, Research Organization of Information and Systems)

15:15 From Secrecy to Transparency: The 4 myth of privacy Enhancing Technology (PET), Günter Müller (Professor, Albert-Ludwig University of Freiburg, Institute of Computer Science and Social Studies (Telematics))

16:15 Big data - Lifelog Business and Case Studies, Hiromichi Yasuoka (Senior Consultant, Nomura Research Institute)

17:00 Partial Identities and Attribute-based Credentials for a more secure and privacy-friendly Internet and identity assurance, Kai Rannenberg (Deutsche Telekom Chair of Mobile Business & Multilateral Security Professor, Goethe University Frankfurt)

- 20:00 Poster session
- 21:00 Free discussion

12月14日

- [Session2] Social Infrastructure for Knowledge Circulation

9:00 Global Knowledge Sharing and Future Roles of Educational & Research Institutions, Yuichiro Anzai (President, Japan Society for the Promotion of Science)

9:45 A Survey of Streaming Applications Using Streams, Scott Schneider (IBM Thomas J. Watson Research Center, US)

- [Session3] Cutting-edge of Data-centric Science

11:00 Contribution of Data-Centric Science to Societal Benefit Areas - Toward Better Actions in Agriculture, Biodiversity, and Disasters, Asanobu Kitamoto (Associate Professor, National Institute of Informatics / Sokendai)

11:15 With Innovative Data Collection to Smarter Cities: Cyber Social Simulation based on Massively

Multuser Networked 3D Virtual Environments, Helmut Prendinger (Professor, National Institute of Informatics / Sokendai)

11:30 Big Data Centric Service Science - Business Innovation by Smart Phone-, Hideki Yoshii (International Network & Service Development Dept., SoftBank Telecom Corp)

11:45 Privacy Visor: Method for Preventing Privacy Invasion through Face Detection from Camera Images Based on Differences in Sensory Perception between Humans and Devices, Isao Echizen (Associate Professor, National Institute of Informatics / Sokendai)

- [Session4] Power of Knowledge Circulation on Social Design - Creation, Integration, and Future

13:00 Data-Centric Science – Evolution of the Astronomers' Community, Keiichi Kodaira (Director, JSPS Bonn Office and Former President of Sokendai)

13:45 Data-Centric Science in Hospitals - Current State and Future Issues to Mine New Medical Evidence at Ordinary Times and Snatch Personal Medical Record in Time of Disaster, Shu Kuramoto (President, Kochi Organization for Medical Reformation and Renewal)

14:30 Remarks on Data Centric Policy Making, Hiroe Tsubaki (Vice Director-General, The Institute of Statistical Mathematics / Professor of Sokendai)

15:30 Big Science and the Web –Higgs particle to Open Biology–, Youhei Morita (Associate Vice President, Okinawa Institute of Science and Technology (OIST) Graduate University)

16:30 Announcement of Next SOKENDAI symposium and Closing Remarks, Kohji Hirata (CPIS, SOKENDAI)

## 3 学融合教育事業

### 3.1 公募型教育事業

公募型教育事業には次世代研究者育成教育プログラム、国際的研究リーダー育成プログラム、総研大レクチャー、海外総研大レクチャー、学生企画による教育研究プロジェクトがあり、2012年度に実施の決まった事業（および代表責任教員）は以下のとおりである。2012年度の公募型共同研究の審査および配分額の決定は2012年3月に運営会議よって行なわれた。（なお2013年度分の教育事業から推進センター運営委員会が審査と予算の配分を行なうこととなった。2013年2月25日にヒアリングを行い、運営委員会の審議によって配分額を決定した。）

■**次世代研究者育成教育プログラム** 総研大の教育理念に基づき、専攻・研究科の枠を超えて次世代の研究者を育てようとする教育プロジェクトです。

- アジア冬の学校（天文科学専攻・小久保 英一郎）
- 文化科学研究科連携事業（地域文化化学専攻・塚田 誠之）
- 生命科学リトリート（生命共生体進化学専攻・五條堀 淳）

■**国際的研究リーダー育成プログラム** 国際共同研究・共同事業を推進できる研究者を専攻・研究科の枠を超えて育成する事業に対して助成することを目的とします。

- 総研大生が主導する科学英語カリキュラム（遺伝学専攻・平田 たつみ）
- 実践的な討論英語力養成を目指した進化行動学ワークショップ（生命共生体進化学専攻・蟻川 謙太郎）
- 国際的プレゼンテーションスキル開発教育（生命共生体進化学専攻・印南 秀樹）
- 体験留学プログラム（旧サマーリサーチプログラム）（遺伝学専攻・鈴木 えみ子）

- 国際的プレゼンテーション能力強化プログラム (構造分子科学専攻・信定 克幸)

■**総研大レクチャー** 既存の学問にとらわれない自由な発想の場を提供することを目的とします。また、他大学の大学院生等に広く開放して学术交流に貢献することを目指します。単位の認定も可能です。

- 日本歴研究の方法 A-資料調査法- (日本歴史研究専攻・大久保 純一)
- 日本歴研究の方法 B-地域研究の方法- (日本歴史研究専攻・小池 淳一)
- 日本歴研究の方 C-博物館とは何だろう- (日本歴史研究専攻・村木 二郎)
- プレゼンテーションセミナー 2013 (メディア社会文化専攻・三輪 眞木子)
- 科学技術倫理と知的財産権 (メディア社会文化専攻・児玉 晴男) (履修者が無かったので開講せず)
- 科学コミュニケーション (加速器科学専攻・森田 洋平)
- 科学における社会リテラシー (学融合推進センター・平田 光司、生命共生体進化学専攻・標葉 隆馬)
- 学術映像の基礎-みる・つくる 2012- (学融合推進センター・村尾 静二)
- データ中心科学と知識循環社会 (情報科学専攻・曾根原 登) (国際シンポジウムを兼ねる) 2.6 章 参照。
- 国際コミュニケーション (学融合推進センター・岩瀬 峰代) 2.4 章参照。

■**海外総研大レクチャー** 総研大レクチャーの海外版です。教員と学生が海外の大学、研究機関でセミナーを開催し、外国の教員、学生と交流します。

- Asian Winter School on Strings Particles and Cosmology (素粒子原子核専攻・北澤良久)

■**学生企画事業(公募)** 総研大の教育研究理念に基づき、実践的な問題解決能力を持つ研究者を育成するため、専攻・研究科の枠を越えて行う学生企画事業に支援することを目的とします。

- GakuSayNet 大学院生交流会 (極域科学専攻・小島 本葉)
- 研究に関する情報の保護と利活用を考える会 (遺伝学専攻・高橋 明大)

## 3.2 研究者入門

研究を行っていく上で考えなければならない身近な問題について、参加者が主体となって学んでいく 3 日間の集中講義。2010 年度から。

2012 年には 7 月 14 日 (土)~16 日 (月) に葉山キャンパスで行われた。詳細は報告書 [6] 参照。

## 3.3 大学院教育研究会

センター教育事業の一環として大学院教育研究会を行なった。詳細は報告書 [7, 8, 9, 10] 参照。

■**第 6 回「対話する挑戦！参加型プラットフォームを考える」** 日時：6 月 8 日 (金) 10 時~17 時



会場：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

■第7回「データを活用した大学院教育の運営～大学院における IR（インスティテューショナル・リサーチ）活動を考える～」 日時：7月6日（金）13時～17時

会場：アリアル五反田駅前会議室

■第8回「留学生と日本人学生が創り出すグローバルリーダー 留学生の国際化、日本人学生の国際化」

日時：12月11日（火）13時～17時

会場：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター

■第9回「学習場面の振り返り ―経験則と学習プロセス」 日時：2月3日（日） 13時～17時

会場：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター

## 4 学融合研究事業

2011年度の学融合研究事業には公募型共同研究事業、戦略的研究プロジェクト事業、女性研究者支援事業、および若手研究者支援事業があった。2012年度からは公募型共同研究事業は新規募集はなくなり、継続課題のみとなった。かわって、戦略的共同研究Ⅰが始まり、従来の戦略的研究プロジェクトは戦略的共同研究Ⅱとなった。公募型共同研究事業が戦略的共同研究Ⅰに名前を変えたわけではなく、専攻、研究科を越えた共同研究であることに加えて、教育に資することも目的の一つとなったものである。（付録C参照。）

2012年1月に開催された公開研究報告会後の運営委員会で議論が行われ、公募要領が確定した2月中旬から3月末までの期間に学内公募が行われた。この審査は2012年度に入ってから行われたが、2011年度中の合意により研究事業の審査に関しては2011年度の委員会が引き続き審査を行った。このため、5月23日にヒアリングおよび臨時運営委員会が開催された。この委員会は実質的には2011年度のものである。

審査方法は以下のようであった。

1. 公募型共同研究継続分、若手研究者研究支援と女性研究者研究支援については（2011年度の）運営委員およびセンター教員の中から選ばれた3名が書面審査の上、5月23日の臨時運営委員会にて承認。
2. 戦略的共同研究Ⅰ（新規）については（2011年度）運営委員およびセンター教員の中から選ばれた3名が書面審査を行い、臨時運営委員会にてヒアリングを実施。この採点に基づいて書類審議によって承認。
3. 戦略的共同研究Ⅱについては臨時運営委員会にてヒアリングを実施。この採点に基づいて書類審議によって承認。

### 4.1 戦略的共同研究Ⅰ

公募型共同研究は専攻、研究科を越えた共同研究を試み、深化することを目的に行われてきたが、2012年度からは、これに「教育に資する」ことを加えた戦略的共同研究Ⅰとして募集することとなった（従来の公募型共同研究事業の継続分に関しては不変）。

異分野の研究者間における共同研究を通じて、これまでに無かった観点・発想・手法・技術を用いることにより新しい研究領域・方法の開拓を目指すもの。複数の研究分野に跨る課題について共同研究を推進することにより、各研究科または各専攻間における研究交流の更なる活性化と、本学の学術研究及び教育の柱となる学問領域の創成を目指し、各基盤機関に所在する各専攻が有する優れた人的・研究的環境や、高度な専門性と叡智を最大限に活用した「総研大」らしい特色ある研究テーマへの支援を行うことを目的とします。本事業の性格上、科研費等への申請には馴染まないが、新規性・独創性溢れる研究テーマについて積極的に支援を行います。特に、センター設立の趣旨を反映し、複数専攻に所属する研究者が共同して行う研究や「学生教育を視野に入れた研究テーマ」については、優先的に支援する予定です。(公募要領より)

申請カテゴリーには (a) 共同研究支援 (当該研究領域の発展を目指し、本学の複数の研究科又は専攻、あるいは同一専攻内の異分野の教員・研究者が連携し、各々の高度な専門性を活かして実施する共同研究で、広い視野を持つ学生の教育に資する構想があること)、(b) 新課題抽出支援 (当該研究領域の新たな展開を目指し、本学の複数の研究科又は専攻、あるいは同一専攻内の異分野の教員・研究者が連携し、調査活動や研究会の開催等を通じて新たな視点や手法を検討し、新課題の創出を目指した共同研究で、広い視野を持つ学生の教育に資する構想があること) の二つのカテゴリーが用意されている。

2012 年度の採択課題と代表者は以下の通りである。

- 新課題抽出支援
  - － テクノロジーアセスメント報告の試作 (遺伝学専攻・井ノ上 逸朗)
  - － 観相資料の学際的研究 (日本文学研究専攻・相田 満)
- 共同研究支援
  - － 惑星科学と生命科学の融合：生命概念の普遍化 (生命共生体進化学専攻・長谷川 眞理子)
  - － 在ハワイの日本歴史・文化資料をめぐる国際共同 (日本歴史研究専攻・大久保 純一)
  - － 手話言語学を世界へつなぐメディア発信 (比較文化学専攻・菊澤 律子)

## 4.2 戦略的共同研究 II

戦略的共同研究は文理融合を目指すものであり、テーマもトップダウン的に決めるものであった。戦略的共同研究 II となっても、この点は不変である。2012 年度は継続分のみである。

本学の学術研究及び教育の柱となる学問領域を創成することを目的として、各専攻が有する優れた人的・研究的環境・資源を有機的に組み合わせ、文理融合を目指した学際的・専攻横断的分野における新領域開拓の研究テーマとします。従って、文系・理系双方の分野の教員・学生・学外研究者が研究分担者として参加する研究推進ユニットとする必要があります。研究テーマの目的・展望が本件募集の趣旨に沿って明確に示され、その目的を実現するために形成する研究推進ユニットによる、具体的な研究計画及び定められた研究期間内における到達目標が具体的に明示されている提案への助成。【2010～2011 年度の公募の趣旨】

2012 年度の採択課題と代表者は以下の通りである。

- 現生人類の拡散による遺伝子と文化の多様性創出に関する総合的研究 (遺伝学専攻・斎藤 成也)
- 日本における諸科学の編成と基礎概念の検討 — 文理融合の有効性をさぐる (国際日本研究専攻)

#### 4.3 公募型共同研究 (継続課題のみ)

- 平成24年度で終了する課題
  - － 日本中世・近世における「職人尽絵」の解明と都市風俗の E-learning 教材化 (日本文学研究専攻・大高 洋司)
  - － 高強度場の物理と真空の多様性 (素粒子原子核専攻・磯 暁)
  - － ビッグバン以前の宇宙を探る科学衛星に向けた小型地上観測実験 (素粒子原子核専攻・田島 治)
  - － 南極湖沼生態系における光合成生物集合体の形態・構造および機能の多様性 (極域科学専攻・工藤 栄)
  - － 脳の進化—大脳新皮質の起源を尋ねて (遺伝学専攻・平田 たつみ)
  - － 隣島移植をモデル系とした機械—化学応答細胞死のイメージングサイエンス (生理科学専攻・富永 真琴)
  - － 視覚的判断に関わる脳内機構の解明-モデル生物研究との融合による神経行動学の新展開をめざして- (生命共生体進化学専攻・木下 充代)
  - － 温度感受性の進化生物学 (生命共生体進化学専攻・颯田 葉子)
  - － 資源利用と環境に関する学融合的研究：狩猟採集から食料生産への生業の変化と社会 (生命共生体進化学専攻・本郷 一美)
  - － 分野を越境した学術対話手法の開発と評価 (メディア社会文化専攻・加藤 浩)
  - － 科学広報と学術コミュニケーション (加速器科学専攻・森田 洋平)
- 平成25年度で終了する課題
  - － 模擬宇宙線を用いた実験室宇宙科学の展開 (加速器科学専攻・高山 健)
  - － 糖鎖集合状態の変化による幹細胞近接場制御 (生理科学専攻・池中 一裕)
  - － 脳の左右非対称性：その生理的意義と発生学のおよび進化学的側面 (生理科学専攻・重本 隆一)

#### 4.4 若手研究者研究支援

- 継続課題
  - － 3次元局所特徴によるボリュームデータの分類に関する研究 (メディア社会科学専攻・鈴木 一史)
  - － 複合的アプローチを用いた中心体複製の分子機構の解析 (遺伝学専攻・北川 大樹)
  - － 食物連鎖のメタゲノム解析 (遺伝学専攻・北野 潤)
  - － 太陽系外惑星から astrobiology へ (学融合推進センター・眞山 聡)
- 新規課題
  - － 近世有職故実の展開と伝播に関する基礎的研究 (日本文化研究専攻・西村 慎太郎)
  - － 沿岸ポリニヤにおける海氷生産量データの高度化 (極域科学専攻・田村 岳史)
  - － 分散と社会性の共進化ダイナミクスの解明 (生命共生体進化学専攻・大槻 久)
  - － 生体分子自己組織化過程の時間分解観察を可能にする脂質二分子平面膜計測系の構築 (構造

分子科学専攻・木村 哲就)

- 学習過程における志向性の変遷を可視化する学習支援ツールの開発 (学融合推進センター・山田 雅之)
- 最終氷期以降における東南極氷床の融解：その量・速度の定量的復元 (極域科学専攻・菅沼 悠介)
- ショウジョウバエにおける miRNA 遺伝子と標的遺伝子の共進化の検証 (遺伝学専攻・野澤 昌文)
- ヘパラン硫酸微小構造 (HSNS) による Wnt シグナルの制御 (基礎生物学専攻・三井 優輔)
- 複合的災害を巡る社会構造と言論に関する科学技術社会論的研究～格差の構造に注目して (生命共生体進化学専攻・標葉 隆馬)

## 4.5 女性研究者研究支援

### ● 継続課題

- 階層的銀河形成理論が予測する銀河の色等級図の理論計算とその系統的分析 (天文科学専攻・生田 ちさと)
- ゼブラフィッシュ近交系の TILLING ライブラリー作成系の確立 (遺伝学専攻・新屋 みのり)
- 真骨魚類 2 分子種 AR 遺伝子による雄性形質発現の分子機構 (基礎生物学専攻・萩野 由紀子)

### ● 新規課題

- 界面電子移動反応を利用した水の完全光分解システムの創成 (構造分子科学専攻・近藤 美欧)
- 被子植物の花粉管極性伸長に関わるレセプター様キナーゼ遺伝子変異体の表現型解析 (遺伝学専攻・宮崎 さおり)
- マウス着床前胚における原始内胚葉細胞の cell sorting に関わる分子機構 (基礎生物学専攻・豊岡 やよい)

## 4.6 論文助成事業

本学に所属する教員・特別研究員及び本学の学生の研究活動の成果である研究論文の投稿・掲載について、一定の条件のもと経費支援を行っている (一件 10 万円以内)。予算は 300 万円であった。

詳細および本年度の助成実績は学融合推進センターのホームページ、「学融合研究事業 - 論文助成事業」を参照のこと。

## 4.7 公開研究報告会

1 月 24 日 - 25 日に学融合推進センター棟にて開催。

戦略的共同研究 I・II 及び公募型共同研究 21 件の研究課題が口頭発表を、若手研究者研究支援事業と女性研究者研究支援事業に採択された 19 件の研究課題がポスター発表を行った。2 日間で 60 名を超える参加者があった。

■**ポスター賞** ポスターの中から以下の 3 件が選ばれた。ポスターは学融合推進センターに 1 年間掲示される。

- 学融合推進センター賞：本研究報告会におけるすべてのポスター発表のうち、最も優秀であると評価されたもの。学融合推進センター・眞山聡助教「太陽系外惑星から astrobiology へ」
- 若手研究者賞：学融合推進センター賞を受賞したポスター発表を除く『若手研究者研究支援』の発表の中で最も優れたもの。物理科学研究科・構造分子科学専攻 木村哲就助教「生体分子自己組織化過程の時間分解観察を可能にする脂肪二分子平面膜計測系の構築」
- 女性研究者賞：学融合推進センター賞を受賞したポスター発表を除く『女性研究者研究支援』の発表の中で最も優れたもの。物理科学研究科・構造分子科学専攻 近藤美欧助教「界面電子移動反応を利用した水の完全光分解システムの創成」

## 4.8 学融合研究事業の検討

本年度には、これまでの研究事業のありかたを見直す試みが進められた。

■**学融合アイデアサロン** 学融合アイデアサロンは総研大の研究者が知り合い、自由な意見交換の中から新しい研究分野の形成に進むためのフォーラムとして構想された。

分野を越えた共同研究に向けたアイデアを持つ研究者、あるいは学融合研究事業等において既に研究を実施しており、今後更なる研究の発展を望む研究者が本学の他専攻・他分野の研究者に対して共同研究の提案を行い、より学際的かつ実現可能性の高い研究計画の立案に向けた意見交換を行うワークショップである。しかし、類例の無いイベントであったにもかかわらず周知が十分にできなかったこともあって、応募者が少なく、本年度における実施については見送られた。この反省にたつて、より準備のしやすい「学融合研究事業のありかた検討会」が構想され、第14回運営委員会において承認された。

■**学融合研究事業のありかた検討会** 日時： 12月3日(月) 12時30分 ～ 18時

会場： 学術総合センター2階会議室

「第1部 学融合研究事業に関する情報提供と自由討論」

検討会趣旨説明 平田センター長

本学における研究事業の位置づけ 高畑学長

過去三年間の公募型時研究事業の実施状況 学融合研究事業担当教員(佐々木顕、見上公一)

休憩・懇談 14時45分 ～ 15時45分

「第2部 新しい学術分野の創出の為の取り組みとは？」

新分野開拓の経験から 湯川学長補佐

研究代表者の視点から 田邊優貴子(本学修士、東京大学研究員)、大高洋司(文化科学研究科、教授)、斎藤成也(生命科学研究科、教授)

この後、全体討論を行った。この検討会では、研究事業の方向性についての意見交換が活発に行われ、一部は学融合推進センター運営委員会の議を経て2013年度の事業に反映された。

## 5 基盤整備事業

### 5.1 学術広報事業

広く学術の振興と普及、及び優れた研究成果の公的流通の促進を目的として、本学で行われている教育研究活動の成果を一般社会に発信・還元した。2013年3月からは広報室が独立し、センターは広報室との協力のもと、教育研究交流に関する学内広報を主に担当することとなった。

### 5.2 ホームページの運営

センター活動の広報を中心にセンターの web ページを構築、運営した (<http://cpis.soken.ac.jp/>)。

### 5.3 遠隔教育支援事業（動画配信サイトの整備）

推進センターでは遠隔教育を支援するために、遠隔教育を行う専攻の教員が web 上に講義の動画や教材をおき、講義の補助とすることができるプラットフォームを作成することを方針としていた。2012年度までには以下の機能が整えられた。

履修する学生の立場では、次のような流れになる。

1. 推進センターのホームページで「遠隔講義」のページに入る。
2. 履修する講義を選択し、講義のページ（グループページ）に入る。このときパスワードを要求される。
3. 講義ページに入ると、同ページにおける講義動画の視聴、授業資料のダウンロード、掲示板等ページ内の機能の使用が可能になる。

担当教員は、自分の講義ページを自由に運営でき、モジュールという機能の追加、モジュール上での動画やファイルをアップロードおよびダウンロードが可能です。また授業ページには、サブグループ、サブページも追加でき、授業内容ごとの運用が可能です。

■講義ページ（グループページ） 以下の機能が利用できる。

- お知らせ：授業に関する情報やシラバスなどがテキストで表示できる。
- リンクリスト：リンクを一覧で表示できる。
- カウンタ：訪問者の集計。
- キャビネット（ファイル配信モジュール）： 文書ファイル、画像ファイル、プレゼンテーションファイルなどのアップロードができる。
- 動画一覧
- 授業ページ内の検索（この話題はどの講義のどのあたりに出てきたか、などがわかる）
- オプションとして各授業ごとのページを設けることもでき（次項参照）、その場合には授業の一覧とそのページへの入り口を置ける。

■**授業回ごとのページ** 講義のトップページのほかに、授業ごとのページのテンプレートも用意されている。デフォルトの機能は以下のとおりである。

- アンケート： 授業の感想などのアンケートを実施できる機能。
- 小テスト：授業内の確認テストなどを実施できる機能。正解・不正解をその場で表示できる
- 動画配信モジュール：授業動画のストリーミング配信可能な機能
- 掲示板：受講者同士のオンライン上での非同期型の議論の機能。
- チャット：受講者同士のオンライン上での同期型の議論の機能
- iFrame：html ファイルを表示できる機能
- お知らせ：教員からテキストでメッセージを入れられる機能
- ToDo リスト：教員が授業内の To Do を入れ込むことができる機能
- レポート提出：学生の提出ファイルを受け付ける機能。
- オンライン状況：現在アクセスしているオンラインユーザの表示機能
- RSS：他の登録サイトの情報を自動で更新してくれる機能。例えば、基盤機関のウェブページの最新情報を自動的に表示する。
- 日誌：学生が書き込むことのできるブログ機能

2013 年度には、上記の授業テンプレートを作成し、配布可能な状態にする予定である。

■**運用体制** 実際にこのシステムを講義の補助に用いる場合には、葉山の担当事務（学務課）と推進センターの担当教員が講義を行う専攻の教員と協力する。単位の申請などの教務的なところを除けば、授業の担当教員が自力で動画や教材をアップロードできるようにした。2013 年度後期をめぐり、関係機関と連絡の上、配信を開始する予定である。

## 5.4 センター基盤事業経費（葉山公募）

- 共同利用機関におけるネットワークセキュリティ研究活動の促進  
2012 年 10 月 4 日－5 日に国立極地研究所において「共同利用機関におけるネットワークセキュリティワークショップ」を開催した。詳細は報告 [11] を参照のこと。
- 総研大情報ネットワーク  
2012 年 7 月 4 日に東京ステーションコンファレンスにおいて「総研大学術情報基盤フォーラム 2012」を開催した。詳細は報告 [12] を参照のこと。
- 認証キャンパスポータルシステムにおける全学認証機能の検証  
認証キャンパスポータルシステムを総研大クラウドの認証基盤として活用するために必要な機能を開発し、ユーザ実証試験を行った。2012 年 3 月には大学ホームページへ登録し、システムとして運転を開始している。また Soken-Anet（総研大学術交流ネットワークサイト）との SSO 認証機能追加と連携機能の強化を行った。

## 6 その他の活動

■**葉山セミナー（CPIS）** 推進センター教員による、または教員のためのセミナーで原則として第3水曜夕刻に行い、終了後は簡単な意見交換会を行なう。

5月16日 眞山 聡（学融合推進センター）「巨大観測装置アルマとすばる望遠鏡による惑星研究、及び大学共同利用機関としての国立天文台」

6月27日 村尾 静二（学融合推進センター）「映像にみる人間の生活と文化－映像人類学の研究課題について」

7月18日 岩瀬 峰代（学融合推進センター）「遺伝子の起源と進化」

10月17日 桂 勲（学融合推進センター）「大学・大学院教育の諸問題：個人的な体験をもとに」

12月19日 見上 公一（学融合推進センター）「STSという学問：日本の再生医療を題材に」

2月20日 林 耕次（神戸学院大学人文学部）、米澤 隆弘（復旦大学 生命科学学院）「ヒトとアフリカゾウー共進化の解明を目指して」

■**センターニューズレター発行** センター事業などの案内のために年4回（5月、8月、11月、2月）発行。

■**CPIS Report** センターにおける研究活動、各事業の報告、記録などを周知、保存するために、総研大リポジトリを利用したウェブベースの報告書を作れるようにした。10月12日にはCPIS Report 取り扱い要領も制定され [3]、編集委員会も設置された。2012年度の編集委員は麻生、田辺、見上、平田（編集長）である。

CPIS Report 2012/07/001(Lecture) 井口 春和（著）「エネルギー環境問題」

CPIS Report 2013/02/001(Review) 桂 勲、岩瀬 峰代（著）「総合研究大学院大学学生セミナー -歴史と現在-」

■**センター棟整備** 教員の居室予定スペースを撤去して開放的な空間とし、基盤教員、学生がサロニックに利用できるようにした（図2参照）。



図2 センターに入ったところ。奥は教員の研究スペースで、全体に開放的な空間となっている。



## 付録 A 全学教育研究交流事業の歴史

学融合推進センターで行なっている事業の「起原」は、開学とほぼ同時に始められた「全学的活動」にある。

1988年秋の開学直後、最初の学生が入学する以前から、すでにサマースクール実施委員会が開かれており1989年9月には最初のサマースクールが開催された。これは全専攻の学生を集めた合宿形式の講義であり、国際的な研究者を講師に招き、分野を越えた広い視野の涵養と専攻を異にする学生同士の交流をはかるものであった。この年には学内共同研究もすでに始められ、分野を越えた斬新な研究テーマが推進された。1990年には第一回学生セミナーが、1991年には第一回国際シンポジウムが開催されている。湘南レクチャーは少し遅れて、1995年に開始されたもので、総研大以外の大学院生も履修可能で単位も取得できる講義という特長を持つものであった。総研大のように大学共同利用機関によって支えられ巨大なインフラに恵まれた大学は全国の大学院にも貢献すべきである、という外部からの要請に答えたものと聞いている。(以上、主に文献[13]による。)

1991年4月には全学事業を担当する組織として教育研究交流センターが設置された。同センターの設置は本学の基本構想の中ですでに打ち立てられており、本部用地確保の見通しがついた時点で予算要求を行ったものである。1994年4月には高畑尚之現学長が専任教授としてセンター長に就任された。

教育研究交流センターは学生セミナー、湘南レクチャー（総研大レクチャーの前身）、国際シンポジウム、サマースクール、共同研究、グループ研究、若手研究者短期滞在事業（JSPS サマープログラムの前身）などの事業を行った。専任教員として教授3、助教授1を持ち、その意思決定は専攻代表、研究科長、副学長、センター教員からなる運営委員会によるものであった。2002年からは学内公募による専攻横断型の教育事業（当初は「総研大教育促進事業」と呼ばれた）も始まった。

2004年度からの法人化にともない、教育研究交流センターは廃止され、研究事業を担う葉山高等研究センターと、教育・交流事業を担う全学事業推進室が設置された。全学事業推進室のもとで、留学生を主な対象とする秋期学生セミナー、それに続く日本語入門講座、外国で講義を行なう海外総研大レクチャーなど、多くの新規事業が加えられた。全学事業推進室の事業は運営会議で報告、審議された。

2010年度には葉山高等研究センターと全学事業推進室を合併し、学融合推進センターが設立された。公募型教育事業の審査が推進センターによって行なわれるのは2013年度からとなるなど、全学事業の体制がセンターに一本化されるまでには時間がかかった。

## 付録 B 運営委員会記録

■第13回 日時：2012年6月20日（水）13：30～15：30

場所：TKP 目黒ビジネスセンター 2階 202室

### 主な議題

- 2012年度センター年間事業計画について
- センター各事業担当構成員の役割・任務等について
- 「科学知」の総合化特別委員会について
- センター特任教員の選考について
- 総合教育科目プログラム委員会委員長選出について

- 学術分野を超えた共同研究の為のブレインストーミング・ワークショップ「学融合アイデア・サロン（仮）」の提案について
- センター協力教員の選出について
- 全学事業担当教員のセンター運営委員会オブザーバー参加について

■第14回 日時：2012年10月12日（金）13:00～

場所：学融合推進センター棟2階クリエイティブスペース

**主な議題**

- 「総研大レクチャー」実施要項の改正について
- 総合教育科目プログラム委員会委員長の推薦について
- 2013年度学融合教育事業の公募について
- 学融合推進センターの助教の公募について
- 特別経費「実践的な問題解決能力を持つ研究者養成のための全学連携活動の推進-新たなキャリアパスへの挑戦-」特別委員会について
- 特別経費「科学知の総合化」特別委員会について
- 学融合推進センター CPIS Report について
- 2012年度学融合研究事業について（アイデア・サロンの見直し等）
- 2013年度前学期学生セミナーについて
- 2013年度からの学融合推進センター運営委員会の構成について

■第15回 日時：2013年1月25日（金）14:00～16:20

場所：学融合推進センター棟2階クリエイティブスペース

**主な議題**

- 学融合推進センター助教の人事選考について
- 学融合推進センター所属教員の任期延長について
- 2013年度前学期学生セミナーの実施について
- 2013年度の学融合研究事業について
- 2013年度からの学融合推進センター運営委員会の構成について

■第16回 日時：2013年2月25日（月） 15:25～16:40

場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター 4階カンファレンスルーム 4階

**主な議題**

- 2013年度学融合教育事業の採否・査定額の方針について
- 2013年度学融合研究事業（継続分）の審査方針について
- 2013年度学融合研究事業（新規分）の公募方針について
- 学融合推進センター客員研究員の受入について
- 学融合推進センター構成員の変更について

## 付録 C 学融合研究事業の「進化」

公募型研究事業の種目については毎年のように改革、改良が行われてきたので、その変化の過程を整理しておく。

■2010 年度 センターの発足と同時に学内公募による研究事業を開始。第1回センター運営委員会において公募要領の承認を得たのち、5月初めから公募を開始。公募型共同研究・若手研究者研究支援・女性研究者研究支援については募集締め切り5月28日、戦略的研究プロジェクトは6月30日。

審査方法について

1. 若手研究者研究支援と女性研究者研究支援については葉山の研究事業担当者と運営委員1名（計4名）が書面審査の上、第2回運営委員会にて承認。
2. 公募型共同研究については葉山の研究事業担当者が書面をスクリーニングした後、学内での共同研究の形を成さない1件の申請を除いて第2回運営委員会にてヒアリングを実施。
3. 戦略的研究プロジェクトについては第3回運営委員会にて書面審査を行い、3件の候補について第4回運営委員会にてヒアリングを実施（運営会議にて呼びかけを行い、理事や学長補佐、研究科長にも出席を依頼）。

	申請件数	採択件数	予算配分(千円)
公募型共同研究	17件	10件	40,600
若手研究者研究支援	28件	14件（うち1件辞退）	14,700
女性研究者研究支援	12件	7件（うち1件辞退）	7,700
戦略的研究プロジェクト	14件	2件	6,000
合計	71件	33件（うち2件辞退）	69,000

■2011 年度 1月に開催された公開研究報告会後の運営委員会以降に公募要領が確定し、2月中旬より3月末まで公募が行われた。公募型共同研究に関してはいくつか変更が行われた。重要な点としては下記の2つが挙げられる。

- 1) 分野による審査区分を設け、それに応じた運営委員が書面審査を担当することにした。
- 2) 新課題抽出支援の枠組みを新たに設け、研究会の開催を主軸とした提案についても対応ができるようにした。

また、戦略的研究プロジェクトについては新規の公募は行わず、前年度のヒアリングで不採択となった鈴木貞美教授のプロジェクトの拡充を依頼し、新規プロジェクトとして開始した。

審査方法について

1. 若手研究者研究支援と女性研究者研究支援については葉山の研究事業担当者と運営委員1名（計3名）が書面審査の上、第7回運営委員会にて承認。
2. 公募型共同研究については申請あった審査区分に該当する運営委員が書面審査を行い、新規の申請について第7回運営委員会にてヒアリングを実施。
3. 戦略的研究プロジェクトについては第7回運営委員会にて書面審査を行い、2件の採択を決定。

	申請件数	採択件数	予算配分 (千円)
公募型共同研究継続	8 件	8 件	
新規	10 件	6 件	48,040
若手研究者研究支援継続	6 件	6 件 (うち 2 件辞退)	
新規	19 件	10 件	17,660
女性研究者研究支援継続	4 件	4 件	
新規	4 件	4 件	8,800
戦略的研究プロジェクト継続	1 件	1 件	
新規	1 件	1 件	11,000
合計	58 件	40 件 (うち 2 件辞退)	85,500

■2012 年度 4 章を参照のこと。

## 付録 D 教員研究活動報告 (2012 年)

専任教員の個人研究についての成果報告 (2012 年 1 月-12 月) です。

### ■平田光司

- (書籍分担執筆) 平田光司「科学コミュニケーション-科学と社会の視点から」、国立天文台科学文化形成ユニット編「科学プロデューサ入門講座」pp.51-68 (2012).
- (書籍分担執筆) 平田光司「マンハッタン計画の現在」、歴史学研究会編「震災・核災害の時代と歴史学」青木書店、pp.82-99 (2012).
- (招待講演) 平田光司「社会が知りたい科学：科学の不定性」物理と社会シンポジウム「科学者の役割とは何か：不確実性の中での科学と社会」日本物理学会 (2012 春・関西学院大)
- (招待講演) 平田光司「科学と社会の共生成を記述するオーラルヒストリー:KEK 最初の 10 年に関するプロジェクトの経験から」ワークショップ 現代地球科学史研究と資料保存 (2012 年 3 月 11 日)(東工大)
- (学会報告) 高岩義信、平田光司「素粒子研究所計画における加速器の設計変更の意味すること」(領域 13)18pFG-7 (2012 年 9 月 18 日・横浜国大)

### ■岩瀬峰代

- (論文) Katsura Y, Iwase M, Satta Y (2012) Evolution of Genomic Structures on Mammalian Sex Chromosomes Current Genomics, 13(2) 115-123
- (論文) Kim HL, Iwase M, Igawa T, Nishioka T, Kaneko S, Katsura Y, Takahata N, Satta Y. (2012) Genomic structure and evolution of multigene families: "flowers" on the human genome. Int J Evol Biol.:917678,
- (国際学会報告) Mineyo Iwase<sup>○</sup>, Kim Hielim, Naoyuki Takahata and Yoko Satta SMBE's 2012 annual meeting in Dublin, Ireland on June 23-26, 2012. A non-coding DNA region is an origin of three primate orphan gene families on the sex chromosome
- (学会報告) 岩瀬 峰代<sup>○</sup>、金慧琳、颯田 葉子日本遺伝学会第 84 回大会 九州大学医学部 9 月 24 日 発表ワークショップ 5 遺伝的変異の発生機構から考えるゲノム進化研究の展開性染色体上の新規遺伝子の誕生
- (学会報告) 岩瀬 峰代<sup>○</sup>、奥本 素子 発表日本教育工学会 9 月 17 日 (月) 課題研究: 高等教育の

質保証と教育工学大学院博士課程における IR の意義と課題分析

- (学会報告) 奥本 素子<sup>○</sup>, 岩瀬 峰代 大学情報・機関調査研究会 M J I R 2 0 1 2 年 9 月 21 日  
発表大学院における研究室教育の改善のための調査—PM 理論を活用した指導教員のリーダー  
シップ分析—
- (その他) 岩瀬 峰代、奥本 素子、七田麻美子 (青山学院大学) 研究分析ワークショップ～体は大人、  
頭脳は子ども～ 開催教育工学会ワークショップ 9 月 16 日 (日)
- (その他) 岩瀬 峰代、奥本 素子 僕らの社会はわがままだ～1 億円ワークショップで知る社会の仕  
組み～ 開催科学コミュニケーション研究会 関西支部 2012 年 11 月 12 日 (月)

#### ■奥本素子

- (論文) 奥本素子・岩瀬峰代 (2012) プロジェクトベースドララーニングにおける自発的行動分析、  
教育工学会論文誌 36(3)205-216 (査読有)
- (論文) 奥本素子・岩瀬峰代 (2012) 大学院博士課程における IR の意義と課題分析、日本教育工  
学会 第 28 回全国大会 (査読有)
- (論文) 奥本素子・岩瀬峰代 (2010) 13. 博士課程大学院生のプロジェクトベースドララーニングに  
おける分業分析、第 17 回大学教育研究フォーラム発表論文集、61-62 (査読無)
- (論文) 奥本素子 (2012) つなげる鑑賞法を用いた博学連携の実践と評価：美術鑑賞における事前  
学習の効果と館内学習の効果の分析、美術教育学：美術科教育学会誌 (33)、149-158 (査読有)
- (論文) 奥本素子・加藤浩 (2012) 事前学習と館内鑑賞支援を連動させた博物館における展示鑑賞  
支援システムの開発、日本教育工学会論文誌 36(1)、1-8 (査読有)

#### ■眞山聡

- (論文) Mayama, et al., “Subaru Imaging of Asymmetric Features in a Transitional Disk in  
Upper Scorpius”, ApJL, AAS, 760, L26, 2012 (査読有) (全著者数 61 名、掲載順 1 番目)
- (論文) Grady, C. A., Muto, T., Hashimoto, J., et al. ”Spiral Arms in the Asymmetrically  
Illuminated Disk of MWC 758 and Constraints on Giant Planets”, ApJ, AAS, 762, 48, 2012  
(査読有) (全著者数 74 名、掲載順 55 番目)
- (論文) Thalmann, C., Janson, M., Buenzli, E., et al., ”Imaging Discovery of the Debris Disk  
Around HIP 79977”, ApJ, AAS, 763L, 29, 2013 (査読有) (全著者数 50 名、掲載順 34 番目)
- (論文) Muto, T., et al., “Discovery of Small-scale Spiral Structures in the Disk of SAO  
206462(HD135344B)”, ApJL, AAS, 748, L22, 2012 (査読有) (全著者数 62 名、掲載順 41 番目)
- (論文) Dong, R., et al., “The missing cavities in the SEEDS polarized scattered light images  
of transitional protoplanetary disks”, ApJ, AAS, 750, 161, 2012 (査読有) (全著者数 56 名、  
掲載順 16 番目)
- (論文) Kusakabe, N.; Grady, C. A., “High-Contrast NIR Polarization Imaging of MWC480”,  
ApJL, AAS, 753, 153, 2012 (査読有) (全著者数 55 名、掲載順 10 番目)
- (論文) Tanii, R., Itoh, Y., Kudo, T., et al., “High-Resolution Near-Infrared Polarimetry of  
a Circumstellar Disk around UX Tau A”, PASJ, ASJ, 64, 124, 2012 (査読有) (全著者数 68  
名、掲載順 13 番目)
- (論文) Hashimoto, J., Dong, R., Kudo, T., et al., “Polarimetric Imaging of Large Cavity

Structures in the Pre-transitional Protoplanetary Disk around PDS 70: Observations of the Disk”, ApJL, AAS, 758, L19, 2012 (査読有) (全著者数 55 名、掲載順 33 番目)

- (論文) Narita, N., Takahashi, Y., Kuzuhara, M., et al., ”A Common Proper Motion Stellar Companion to HAT-P-7”, PASJ, ASJ, 64, L7, 2012 (査読有) (全著者数 54 名、掲載順 34 番目)

#### ■見上公一

- (書籍分担執筆) 見上公一 (2012) 「再生医療の社会的受容—細胞のアイデンティティに関する課題」田中正躬編「幹細胞技術の標準化—再生医療への期待」日本規格協会
- (書評) K. Mikami (2012) 「Miwao Matsumoto (2009) The Social Risks of Technoscience」, East Asian Science, Technology and Society: an International Journal, Vol.6(2), pp.289-292
- (国際学会報告) K. Mikami (2012) 「Gaining Control over the Body: Governing the process of regenerative medicine in Japan」‘Body and enhancement technology International Conference’, Pohang (South Korea)
- (国際学会報告) K. Mikami (2012) 「Blocking the process of bio-objectification: the translation of regenerative medicine and the issue of purity in Japan」‘Society for Social Studies of Science Annual Conference’, Copenhagen (Denmark)
- (学会報告) 見上公一 (2012) 「日本の再生医療に見る協働：分野の組織構造と正当性の担保」日本科学技術社会論学会年次大会、葉山

#### ■村尾静二

- (論文) MURAO, Seiji “A Cultural Anthropological Study of Body Techniques for Protection: The Case Study of Indonesian Minangkabau” Ars Vivendi Journal, Ritsumeikan University. 2013. (査読有) (in print)

#### ■山田雅之

- (国際学会報告) Masayuki Yamada and Masaki Suwa, “Practicing ‘Off ice’ Collaborative Learning in a University Ice Hockey Team”, 34th annual meeting of the Cognitive Science Society, Sapporo Japan, (2012 年 8 月) (査読有)
- (学会報告) 山田雅之・栗林賢・諏訪正樹, 「スポーツフィッシングにおける身体知獲得支援ツールのデザイン」第 26 回人工知能学会全国大会, 1O1-OS-6-6, 山口 (2012 年 6 月) (査読有)
- (学会報告) 山田雅之・諏訪正樹, 「アイスホッケーにおける協調学習実践がメタ認知とパフォーマンスに与える影響」日本認知科学会第 29 回大会, P2-28, 宮城 (2012 年 12 月) 査読有)
- (その他) 山田雅之, 「協調学習による自己調整学習スキルの獲得支援 - オンデマンド講義の計画的受講を促進する実践研究」認知科学, 19(2):224, (2012 年 6 月) 「博士論文紹介コーナー」

## 付録 E 2012 年度行事日程

4 月 12-13 日 春期学生セミナー

4 月 20 日 2011 年度総研大全学事業担当教員会議 (第 3 回)、後学期学生セミナー・第 1 回交流会 (岡崎)

- 4月25日 センター会議（第20回）
- 5月16日 葉山セミナー（CPIS）眞山
- 5月18-20日 総研大レクチャー「科学コミュニケーション」（岡崎キャンパス）
- 5月23日 研究課題ヒアリング 学融合推進センター臨時運営委員会（研究事業審査のみ、前年度の委員会で実施）（品川）
- 5月30日 センター会議（第21回）
- 6月8日 第6回総研大大学院教育研究会（青山）
- 6月13日 JSPS サマープログラム オリエンテーション
- 6月13-15日 総研大レクチャー『平成24年度国際コミュニケーション』（葉山）
- 6月20日 学融合推進センター運営委員会（第13回）（目黒）
- 6月27日 センター会議（第22回） 葉山セミナー（CPIS） 村尾
- 7月6日 2012年度全学事業担当教員会議（第1回）（五反田） 第7回総研大大学院教育研究会（五反田）
- 7月14-16日 研究者入門（葉山）
- 7月18日 葉山セミナー（CPIS）岩瀬
- 7月23-26日 総研大レクチャー「学術映像の基礎—みる・つくる2012」（実習と講義）（葉山）
- 7月24-26日 総研大レクチャー「歴史研究の方法 C～博物館とは何だろう」（佐倉）
- 7月27-30日 総研大レクチャー「歴史研究の方法 B～地域研究の方法」（長崎歴史文化博物館など）
- 8月21日 JSPS サマープログラム報告会（H グランドパレス）
- 8月29日 センター会議（第23回）
- 9月3-7日 総研大レクチャー「科学における社会リテラシー」（相模原キャンパス）
- 9月26日 センター会議（第24回）
- 10月11-12日 秋期学生セミナー（含日本文化コース）
- 10月12日 全学事業担当教員会議（第2回）、学融合推進センター運営委員会（第14回）（葉山）
- 10月13-14日 日本語講座
- 10月17日 葉山セミナー（CPIS）桂
- 10月26日 JSPS サマープログラム連絡協議会（麹町）
- 10月31日 センター会議（第25回）
- 11月12-13日 共同研究プロジェクト研究会「脳の進化—大脳新皮質の起源を尋ねて—」（葉山）
- 12月3日 学融合研究事業の在り方検討会（学術交流センター）
- 12月5日 センター会議（第26回）
- 12月6-7日 生命科学リトリート（ヤマハリゾートつま恋）
- 12月11日 全学事業担当教員会議（第3回）、第8回総研大大学院教育研究会、2012-13年度後学期学生セミナー合同委員会（東京駅）
- 12月13-14日 総研大国際シンポジウム「知の循環社会—グローバル融合社会における情報循環ネットワークの創成—」（葉山）
- 12月19日 葉山セミナー（CPIS）見上
- 12月20日 学術映像の夕べ2012（大船）
- 12月26日 センター会議（第27回）
- 1月24-25日 総研大レクチャー「学術映像の基礎—みる・つくる2012」（成果の講評）
- 1月24-25日 学融合研究事業・公開研究報告会（葉山）
- 1月25日 学融合推進センター運営委員会（第15回）（葉山）
- 1月30日 センター会議（第28回）
- 1月31日 2013年度公募型教育事業申請締め切り
- 2月3日 第9回総研大大学院教育研究会
- 2月9日 科学知の総合化シンポジウム（竹橋）
- 2月20日 葉山セミナー（CPIS）林/米澤
- 2月25日 2013年度公募型教育事業ヒアリング審査、学融合推進センター運営委員会（第16回）（東京）
- 3月15日 2013年度公募型研究事業継続分応募締め切り
- 3月21-22日 学術交流会（葉山）

## 参考文献

- [1] 総合研究大学院大学学融合推進センター規則 平成 22 年 3 月 25 日 大学規則第 1 号 一部改正 23.3.28/24.5.14.
- [2] 総合研究大学院大学学融合推進センター運営委員会規程 平成 22 年 3 月 25 日 大学規程第 1 号
- [3] 学融合推進センター CPIS Report 取扱要領 平成 24 年 10 月 12 日
- [4] 桂勲、岩瀬峰代「総合大学大学院学生セミナー -歴史と現在-」(2013 年) CPIS Report-2013/02/001(Review)
- [5] CPIS 「SoI Report – Sokendai International Students Report March 2013」
- [6] 岩瀬峰代、奥本素子（企画・編集）「研究者入門 2011、2012」 (2013) CPIS-Report-2013/06/001(Lecture)
- [7] 岩瀬峰代、奥本素子（企画・編集） 「第 6 回総研大実践的大学院教育研究会ー参加型プラットフォームを考える」(2013) CPIS-Report-2013/06/002(Review)
- [8] 岩瀬峰代、奥本素子（企画・編集） 「第 7 回総研大実践的大学院教育研究会ーデータを活用した大学院教育の運営」(2013) CPIS-Report-2013/06/003(Review)
- [9] 岩瀬峰代、奥本素子（企画・編集） 「第 8 回総研大実践的大学院教育研究会ー留学生と日本人学生が創り出すグローバルリーダー」(2013) CPIS-Report-2013/06/004(Review)
- [10] 岩瀬峰代、奥本素子（編） 「第 9 回総研大実践的大学院教育研究会ー学習場面の振り返り」(2013) CPIS-Report-2013/06/005(Review)
- [11] 洞田慎一（編）「第 16 回共同利用機関におけるネットワークセキュリティワークショップ」(2013 年)
- [12] 大田竜也（編） 「総研大学術情報基盤フォーラム 2012 報告書」(2013 年)
- [13] 総合研究大学院大学「総研大十年史ー分散と総合」(1999)